AMCoR
Asahikawa Medical College Repository http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/

こころのりんしょうa・la・carte (2008.03) 27巻1号:11.

【子どものチックとこだわり】チックの症状と、いわゆる「癖」とはどこが違うのでしょうか?

沖 潤一

Q3 チックの症状と，いわゆる「癖」とはどこが違うのでしょうか？

A. 瞬目，顔をしかめるといった単純運動性チック症は，無意識のうちに繰り返して起こるものであり，癖の一種とも考えられます。ほとんどのチックは，自然に消失し，その後の発達に影響を及ぼさない良性の経過をたどるので，「心配ないよ」と本人に話したり，「癖の一つだよ」と説明したりすることができます。

ただ，「癖」という単語は，万人に理解されやすい半面，「寝酒の癖がある」といったように，「(自分が意識して) 止めることができる」という意味や，「欠点・直すべき非難されるべきもの」といった意味も含んでいます。このため，保護者に「チックは癖の一つである」と説明すると，「本人が気をつけると消失する」「意識的にチックを起こしている」と受け取られてしまう危険性があります。チックは，あくまでも脳の機能的な問題による不随意運動であり，本人が意識して消失させるものとは違うことを強調しなければなりません。

また，年長児のチック症では，痒いような感覚が先行して運動性チックが出現することがあります。このような場合は，本人が不快な感覚を認識しており，意識的にチックを起こしていると捉えられてしまう例があります。このような感覚異常は，運動性チックが始まる前，あるいは終わる頃に肩や喉などチックのあった部位に違和感を体験するものであり，感覚チック（あるいは前駆行動）として注目されています。また，強迫性障害を併存することが多いトゥレット症候群では，「手で顔を打つ」「壁にさわる」といった症状が見られることがあり，癖との異同を判断するのは容易ではありません。

「チックは癖の一つである」という説明は，過度に心配している保護者の不安を取り去るという意味では有用です。ただ，保護者が「癖」をどのように考えているかを把握し，あくまでもチックは，不随意運動であり本人が意識してなくそうとするものではないことを根気よく説明することが肝要です。

参考文献

アンバー・キャロル，メアリー・ロバートソン（髙木道人訳）：トゥレット症候群の子どもの理解とケア：教師と親のためのガイド．明石書店，東京，2007.

NPO 法人日本トゥレット協会編：チックをする子にはわけがある：トゥレット症候群の正しい理解と対応のために．大月書店，東京，2003.

Leckman, J.F. : Phenomenology of tics and natural history of tic disorders. Brain Dev., 25 (suppl. 1) ; S24-S36, 2003.

（沖　潤一／旭川厚生病院）